

企業名： 大日本印刷

レポート名： 統合報告書 2022

## 1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

大日本印刷は「未来のあたりまえをつくる。」<sup>1</sup>というブランドステートメントのもと、持続可能なより良い未来を作っていきたいという目標を掲げているのが、統合報告書の節々からひしひしと伝わってきた。その持続可能な社会の実現のために、「環境問題」や「人権・労働問題」、「多様性の確保」など、様々な問題に取り組んでいるということも統合報告書に分かりやすく書いてあった。例えば、「環境問題」への取り組みであれば、二酸化炭素削減に貢献するような低炭素製品・サービスの開発や資源循環の拡大に向けた不要物処理方法の明確化、生物多様性維持を目的とした原材料選定基準の策定など、「人権・労働問題」への取り組みであれば、男性の育成取得及び有給休暇の取得の促進や「DNP グループ健康宣言」の策定・発信、強制労働などの人権侵害が行われているリスクのある鉱物の製錬所の調査など、「多様性の確保」への取り組みであれば女性社員の採用及び女性の管理職への登用の促進などというように、掲げている目標だけでなく、その目標を達成するための具体的な取り組みについても分かりやすく書かれていたように感じる。企業とは営利組織であり、「利益を得ること」が目的となっている企業も少なくない中、「持続可能なよりよい未来を作る」という目標を掲げ、その目標の達成に向けた活動を行っているのは外部から見て非常に好印象にうつると思う。その目標に向けた取り組みも継続していけばいずれはそれ自身が会社の競争優位性となっていくのではないかと考える。

## 2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

大日本印刷には、出版関連事業や情報イノベーション事業、イメージングコミュニケーション事業などを手掛ける情報コミュニケーション部門、包装関連事業や生活空間関連事業、産業用高機能材関連事業などを手掛ける生活・産業部門、ディスプレイ関連製品事業や電子デバイス事業などを手掛けるエレクトロニクス部門、飲料事業などを手掛ける飲料部門の4つの部門があり、別々の事業を行うそれぞれの部門で得られた知見を掛け合わせて新たな価値を創造する「オール DNP」こそが現在の競争優位性となっているのだということが統合報告書には非常に分かりやすく書かれていたと思う。大日本印刷は、社名に「印刷」と入っているので一見すると印刷業に特化した企業のように見

---

<sup>1</sup> DNP グループ統合報告書 Integrated Report 2022 (2023年7月28日 閲覧)

[https://www.dnp.co.jp/ir/library/annual/pdf/DNP\\_integrated2022j.pdf](https://www.dnp.co.jp/ir/library/annual/pdf/DNP_integrated2022j.pdf)

えるが、実際には一つの業種に特化した企業ではなく、むしろ様々な事業に手を出し、それによって得られた総合力で勝負している企業である、というのは非常にインパクトの大きい情報であったと思う。様々な事業に手を出してそれらを同時進行で進めていくというのは非常に体力のある企業でないとできないことであり、実際に多角化に成功した企業というのは多くはない。そのため、様々な分野の知見を持っているというのは非常に希少価値の高い競争優位性となっていると思う。また、様々な事業に手を出しているということはある事業で行き詰っても別の事業がうまくいってれば企業としては存続可能ということであり、その点においても様々な事業に手を出しているというのは一つの事業に頼らざるを得ない多くの企業と比べた際に非常に強力な競争優位性となってくると思う。

また、「全 11726 件」<sup>2</sup>もの保有特許件数とそれらに裏打ちされた技術力も大日本印刷の競争優位性となっているということも統合報告書には分かりやすく書かれていた。特許という他社にはない技術をこれだけ持っているというのは非常に強力な競争優位性になると思う。この技術力や様々な事業を進めてきた経験などが大日本印刷の競争優位性となり、大日本印刷をこれだけの大企業たらしめているのではないか、と考えられる。

### 3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

大日本印刷はもともと出版印刷事業を営む会社であったが、戦後の変革や IT 化などの日本社会の変化に合わせて多角化などの事業の拡大を行った結果、今日のような様々な事業を営む大企業に発展したという歴史があることが統合報告書には分かりやすく書かれていた。このような歴史を踏まえると、今後日本社会に大きな変化が起こったとしても、大日本印刷はこれまでの歴史通り変化に合わせた事業の変革・拡大を行っていくだろうと予想できる。そのため、様々な事業から得られた知見とそれらに基づく総合力という大日本印刷の現在の競争優位性には持続性があると考えることができる。また、そもそも、多角化企業という企業形態は時代の変化に対応しやすい企業形態であるため、この変化が大きい現代においても、多角化という大日本印刷の大きな特長は簡単には失われないのではないかと考えられる。また、技術力という競争優位性に関しても、研究開発投資に「331 億円」<sup>3</sup>を出すなど、技術力の維持・強化に力を入れていることが統合報告書には書かれていた。そのため、技術力という大日本印刷のもう一つの競争優位性にも持続性があると考えられる。

---

<sup>2</sup> DNP グループ統合報告書 Integrated Report 2022 (2023 年 7 月 28 日 閲覧)

[https://www.dnp.co.jp/ir/library/annual/pdf/DNP\\_integrated2022j.pdf](https://www.dnp.co.jp/ir/library/annual/pdf/DNP_integrated2022j.pdf)

<sup>3</sup> DNP グループ統合報告書 Integrated Report 2022 (2023 年 7 月 28 日 閲覧)

[https://www.dnp.co.jp/ir/library/annual/pdf/DNP\\_integrated2022j.pdf](https://www.dnp.co.jp/ir/library/annual/pdf/DNP_integrated2022j.pdf)

#### 4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

大日本印刷は、男性の育成取得及び有給休暇の取得の促進や「DNP グループ健康宣言」の策定・発信などを行って社員の労働環境の改善に取り組んだうえで、階層別の研修やラーニングマネジメントシステムによる学習環境の整備を行うなど、人を大切にしたい人的資本の強化に取り組んでいるということが統合報告書には非常に分かりやすく書かれていた。そのため、大日本印刷では社員の人的資本の価値向上が達成できると考えられる。また、先ほどから書いている通り、大日本印刷は様々な事業を展開する多角化企業であるため、社内では他社ではできないような分野横断的な経験を積むことが期待でき、そのような意味でもほかの企業ではできないようなやり方による人的資本の価値向上が達成できるのではないかと考えられる。

#### 5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

統合報告書には、大日本印刷のありたい姿や様々な強みなどがカラーの図表などとともに示されていて、全体的に分かりやすい構成になっていたように感じる。フローチャートなども多く、結果だけでなくその結果に至るまでの過程なども分かりやすく示そうという工夫が感じられた。わかりやすい統合報告書になっていたとは思いますが、強いて変えた方がいいかもしれない点を一つ上げるとするならば、全体的に英語などの外来語由来のカタカナ語が多い気がする。日本人向けの日本語の統合報告書ならば直すことのできるカタカナ語は熟語に直して記載するなどの方がよりわかりやすい統合報告書になると思う。

#### 参考・引用文献

- DNP グループ統合報告書 Integrated Report 2022 (2023年7月28日 閲覧)  
[https://www.dnp.co.jp/ir/library/annual/pdf/DNP\\_integrated2022j.pdf](https://www.dnp.co.jp/ir/library/annual/pdf/DNP_integrated2022j.pdf)